

## 平成22年度第9回理事会議事概要

日 時 : 平成23年1月28日(金) 15:30~16:10

場 所 : 森林総合研究所 特別会議室

出席者 :	理事長	鈴木	和夫
	理事(企画・総務担当)	福田	隆政
	理事(研究担当)	大河内	勇
	理事(育種事業・森林バイオ担当)	平野	秀樹
	理事(業務承継円滑化・適正化担当)	町田	治之
	監事	林	良興
	監事	龍	久仁人
	監事	滑志田	隆
	総括審議役	志田	孝一
	審議役	富永	茂
	企画部長	平川	泰彦
	総務部長	安樂	勝彦

### 1. 開会

### 2. 議事

本日は、議題1件、報告4件となっている。

(議題1)平成23年4月1日付け研究職員及び一般職員の採用について

(安樂総務部長) <資料 - 1を説明>

平成23年4月1日付けで、研究職員及び一般職員をそれぞれ2名採用したい。応募条件等は資料のとおりである。勤務地等は研究職員は本所(つくば市)林業経営・政策研究領域及び九州支所(熊本市)で、一般職員は本所または支所となる。

(福田理事)

研究職員については社会的ニーズにより採用するものであるが、まず応募番号1の研究課題名「アジア環太平洋地域における森林・林業・木材貿易問題の構造的把握と解決策の提示」は、この地域では著しく貿易量が伸びてきて、特に中国が膨大な輸入をしており年率20%を超える輸入量が増えている。そのような中で、日本の森林林業に与える影響を研究する分野が弱い。

応募番号2の研究課題名「林業被害軽減のためのニホンジカ個体数管理技術の開発」についても国有林との関係で言うと全森林管理局それぞれにニホンジカ、エゾシカを含めたシカの個体数管理のアドバイス体制を構築し、応援するよう求められている。

このようなニーズと且つ手薄な分野に1名ずつ研究職員を採用する。これは研究室サイドや研究コーディネータと話し合いながらこのような分野に研究職員を投入するよう進めつつある。

一般職員については採用数が人件費管理の関係に影響されるが、人件費管理は相変わらず楽ではないので採用は2名程度で進めたい。

研究職員及び一般職員の募集に係るお知らせは既に行っており、事後承認の形になるが承認頂きたい。

(鈴木理事長)

一般職員の場合、種の選考はいつ頃やっているのか。秋には終わっているのか。

(福田理事)

本省の名簿に入っている人は終わっているので、選考から漏れた人を対象にしている。

種の合格者で未だ採用が決まっていない人の中から採用することになる。

(鈴木理事長)

本件については理事会として了承された。

(報告1)平成23年度予算概算決定額について

(安樂総務部長) <資料 - 1を説明>

研究・育種勘定分については9,764百万円余で対前年度比97.9%である。主要な内訳は、人件費が7,314百万円余(98.6%)、一般管理費が921百万円余(84.9%)、業務経費1,608百万円余(97.3%)となっており、効率化目標等を反映した厳しい予算となっており、引き続き適切な執行管理を行うことになる。なお、一般管理費が大きく減額されているのは、これまで外書きになっていた法人統合による効果としての減額相当額が差し引かれたことによるものである。

施設整備費は257百万円余(90.0%)で、新設等は認められず、研究本館の北棟設備改修及び空調設備改修等並びにF2世代開発推進交雑温室改修を行うこととしている。

(志田総括審議役)

森林農地整備センター分については、森林部門と農用地部門があり、農用地部門は今年度6地区が来年度3地区に半減する。森林部門と農用地部門の大雑把な比率は来年度予算では森林部門が85%、農用地部門が15%となる。ちなみに今年度予算では森林部門が75%、農用地部門が25%である。

農用地部門には農用地総合整備事業と特定中山間保全整備事業があるが、これらについては昨年12月の閣議決定において、現在実施中の地区の事業完了を以て終了することが再確認されている。土地改良事業予算が厳しい中ではあるが、予定年度までに完了するための予算を付けてもらっている。

水源林部門については、当初予算では国全体の財政が厳しいのでかなり削減を受けており、23年度予算案も対前年比92.2%となっている。ただし、22年度の例で説明すると、当初予算は244億円と対前年比44億円の減だが、9月の予備費と12月の補正予算で合計130億円程度の上乗せがあった。これらは年度内に使い切ることができないので、現在精査中であるが数十億円単位で来年度に繰り越す見込みで、来年度も事業費としては十分な額が確保できていると思っている。地球温暖化への対応のために、森林整備については補正予算等を中心に手当をしていただいているので、森林農地整備センターとしてはその使命をしっかりと果たしていくことが重要と思っている。

(福田理事)

森林総合研究所の研究・育種勘定分で言うと実質使える金額は97~98億円である。物価の下落分とか職員が若干減る分とかを含めると満足とは言えないが何とか運営できるかな、というところである。関連して言うと、北秋田の木質バイオエタノール製造実証事業に係る予算は22年度1億4千万円が23年度1億3千万円で1割減、REDDの予算は22年度3億円が23年度2億7千万円で1割減と聞いている。

(町田理事)

収入は何があるのか。

(福田理事)

殆どが多摩森林科学園の入園料である。対前年比129.7%としているが、予算編成過程で前中期計画中ずっと3千万円程度約3%の使えなかったお金があり、それは元々は第1期中期計画の末に第2期中期計画が厳しくなると予想し、お金を残したことが原因である。しかし、それが後から枷となってしまい、決算額に対して一般管理費3%減とか業務経費1%減と言われたので、その結果、予算には計上したが使えないお金が5年間ずっとあった。今回、中期計画が変わるので表に出して整理した。分かりやすく言えば2,800万円のうち1,800万円は収入に積んであるために使えるお金の方が1千万増えている形になっている。諸収入がなかなか上がらないので、今年度は若干苦言を言われると

ころもあるが、ここは多摩森林科学園の展示のリニューアルその他PRに努めたい。以前は8千万円超で上がっていた年もあるので、ここ数年は低落傾向であったが何とか頑張っ  
てこれを上げていくようにすれば、この129.7%で査定されたのもいいかなと思う。  
実質使える方のお金は確保しているので・・・。

(鈴木理事長)

本件の報告については理事会として了承された。

(報告2) 第3期中期目標、中期計画の今後の予定等について

(福田理事) <資料 - 2を説明>

中期目標は2月末までに農林水産大臣が決定するが、現在の評価委員の任期が2月13日迄となっているので、2月4日に1回目の方向付けや意見聴取をして2月下旬(2月21日予定)に14日に改選された新しい評価委員が目標を決定し、それを受けて中期計画の認可申請を提出して中期計画の認可は3月末となる流れになっている。目標については林野庁の方から現委員に説明に行っているような段階なので、何とも言えないが途中のものを参考資料として付けた。目標そのものは大臣が決定することなので、全般にそこにあるようにスリム化というか再生プランに即して重点化という方向に即して分量をスリム化するようにして見えるように作ってある。これに応じて中期計画の文案を内々作っているが、何れにしろそういう段階のため、特に目標の設定のところは大臣の権限なので、そのような状況にあるということをご理解願いたい。このスケジュールのとおりに進むのではないかと考えている。

(鈴木理事長)

本件の報告については理事会として了承された。

本件の参考資料については、農林水産省林野庁の公表状況を確認した後に公開するものとする。

(報告3) 会計実地検査の日程について

(安樂総務部長) <資料 - 3を説明>

今年に入って、今月は委託契約関係の検査が行われているが、2月に入って第5局による研究開発業務の実施状況等、さらに第4局による随契等の改善状況や受委託関係等について検査が行われる予定になっている。

(鈴木理事長)

本件の報告については理事会として了承された。

本件の資料については、会計検査院の公表状況を確認した後に公開するものとする。

(報告4) 平成22年度第3回研究所会議の開催について

(安樂総務部長) <資料 - 4を説明>

第3回研究所会議を3月10日(木)に資料の議事次第により開催する。

(鈴木理事長)

本件の報告については理事会として了承された。

次回の平成22年度第10回理事会は、2月25日(金)開催予定となった。

3. 閉会